

いわき市地域福祉計画策定に向けた 福祉関係団体からの意見

【趣 旨】

地域福祉計画に福祉分野の専門的な見地からの意見を反映するため、次のとおり市内の福祉関係団体から書面で意見をいただいた。

1 意見の内容

- ・ 本市が地域福祉を推進していく上での課題について
- ・ その課題解決のための方策について など

2 意見依頼先

- ・ 社会福祉法人...39 法人
- ・ 福祉関係団体...14 団体（福祉サービスの提供者団体及び利用者団体等）

3 意見の募集期限

平成 18 年 10 月 25 日（水）

4 提出団体数

14 団体

5 意見の内容

別紙のとおり

	意見の内容
1	<p>【福祉関係団体 A】</p> <p>課題解決に向けた方策 私どもは、母親（父親）同士が子育てを通じて、共に支え合い、みんなで（地域で子育て）手をつなぎ、親も友達を作りましょうと活動しています。</p> <p>親子で、家庭から外へ少し目を向けることです。 課題とか方策とか難しいことはわかりません。 これからも親子で楽しめるよう続けています。</p>
2	<p>【社会福祉法人 A】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民間保育園にも、園児の発達に関する相談、食育に関する相談ができるように、専門の保健師、栄養士の定期的巡回を希望する。 2 地域に障がい者の方たちの集合住宅がある。年に一度花の日に園児たちがお花を持って訪問し喜んでいただいている。 今後、園の行事に彼らをお招きして、相互理解と交流を深めていきたいという案がある。 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民間保育園の子どもも、公立の子どもも等しく恩恵を受けられるよう格差をなくしていただきたいと思います。 2 車椅子の方たちを迎えるにあたり、トイレや段差などのバリアフリー化が望まれる。 <p>これから、児童・老人・障がい者などという縦割り方策ではなく、「共に」という視点、大人も子どもも、障がいのある者も健常者も、共に生きていくということが大切と思われます。</p>
3	<p>【社会福祉法人 B】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉について、住民は具体的に何があるのか理解していない。 2 ボランティア・NPO法人活動をしている人は一部に限られている。 （経済的にある程度恵まれている人が多い。） 3 大家族から核家族化へ変わり、住民相互のつながりが希薄化している。 （親と子の関係、自治会等地元との交流をしない。） 自分にプラスになることは親に依存する子供が多く、親は子供には世話になりたくないと思う意識が高くなっている。 隣で何が起きてても我関せずの風潮が増えている。 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自治会等单位ごとに具体的な事項について説明会、勉強会等を定期的（例：月 1 回）に実施する。

	<p>2 ボランティア・NPO法人について周知を図りながら、自由に参加できる仕組みをつくる。(タガをはめないボランティア)</p> <p>3 各自の生活レベルを維持するために仕事をしなければならない状況を見ると困難である。(物の見方、考え方のレベルが変化している。自分の生活、特に収入を維持する努力で他の人に対する余裕がないと思われる。)しかし、声かけ運動は実施すべきと思う。</p>
4	<p>【福祉関係団体B】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 福祉サービスの適切な利用のためには、情報提供が必要ですが、その情報を獲得するための手段が、機器がない、見えない、話せないなど、うまく活用できない人々もいます。私もその一人かも知れませんが、ホームページといわれてもその手だてがありません。</p> <p>私は、今までも種々の調査の際、常時活動し、利用できる場所を確保したい、確保できればいいな、そこを拠点として種々の情報等を伝えたいと考えていることを伝えて(お願いして)来たのですが、なかなか実現できません。</p>
5	<p>【社会福祉法人C】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 本市の共通理念にしたいと提案されている「公民協働」(行政と市民の責任と役割分担)については、地域福祉を行政と市民(民間)が一体となって前進・充実をはかるといふ本来の目指すべき積極面と、行政の守備範囲の縮小、公的責任の後退という問題点の両面があることをタブーなく議論することが必要と思われます。これは結果として、行政と市民の結びつきを強め、「日本一親切な市」を目指すためにも大切だと思います。</p> <p>地域福祉の基本点といわれる以下のことを議論し、進めることが大切だと思います。</p> <p>地域で生活を成り立たせるための基本的要件はなにか 生活上の困難への個別的対応としての要件はなにか 両者を関係づけ組織化し計画化する運営の要件はなにか マネジメントの要件はなにか</p> <p>地域福祉の直接的な対象の中心となるのは高齢者問題、障がい者問題、児童問題かと思われませんが、その各々について当事者とその家族、市民の願いや要求を、これまでの行政及び民間の調査結果をあらためて参考にし、それと本市が到達している現状を比較して議論することが大切な方策ではないでしょうか。</p>

【福祉関係団体C】

その1

本市の地域福祉を推進していく上での課題
 地域福祉懇談会が何をどこまで話し合い、その内容がどのように扱われていくかが問題だと思う。

課題解決に向けた方策

これまで、そのような会が開催された事を聞いておりません。
 十分な広報や必要なメンバー構成をどうしていくのか、よく配慮する必要があるのではないのでしょうか。

その2

本市の地域福祉を推進していく上での課題
 地域福祉のコンセプトは、住み慣れた地域での自立した暮らしを支えるということと理解されます。「暮らし」に幅広く対応する包括的継続的な支援体制が求められます。地域包括支援センターは、そのためのネットワークを構築する役割を期待されています。

今回ケアマネ支援で初期に関わった成功事例は、ボランティアの導入と利用者を囲む支援のネットを活用して解決を図ったもので、この事例から、在宅の独居高齢者はサービス量のニーズよりも、物語を伝え、聞いて欲しいというニーズがあることです。ある人はだれとも話さない日もあり、おしゃべり人形が発する声でなくさめられていると話されていました。

物語の受け手になるボランティアの発掘とその福祉の組織化が重要と考えられます。

課題解決に向けた方策

- ・ 物語を受け止めるボランティアの育成とシステムづくり

地域包括支援センターでの活動のなかで、在宅高齢者の見守り、物語のサポートが必要なケースにたくさんおめにかかります。ここがサポートされれば、もっと自立して暮らしていける高齢者が増えていくものと考えられます。

- ・ 介護相談員制度としていわき市では稼働しているシステムがありますが、対象は施設入所者です。(聞くところによると施設サイドで有効活用できていないのでは?) 在宅に派遣していくためには、より専門性もトレーニングの必要があると思われませんが、現在あるシステムでは、これが唯一軌道修正すれば活用可能な社会資源になるのではと考えています。

いわき市のオリジナルな地域福祉施策としてメニューになることを期待しています。

	<p>その3</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 関係機関の連携と情報の共有化 2 地域のまちづくりにおける指導者の養成、確保 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市関係機関等から推進していく 2 指導者を計画的に養成していく
7	<p>【社会福祉法人D】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <p>今回の地域福祉計画の策定に関連する策定委員会に医師会などの医療関係者の代表者が選ばれていないとのことですが、現在の高齢者、障がい者、子育て支援など、様々な分野で医療関係者の意見は極めて重要なものがありますので、委員に選ばれていないことは、はなはだ遺憾なものと思います。</p> <p>課題解決に向けた方策</p> <p>策定委員会に医療関係者を代表する委員を選任すること。</p>
8	<p>【福祉関係団体D】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <p>当団体は昭和52年から児童育成クラブを開設。運営費は団体の事業収益と子どもからの保育料で賄っている。</p> <p>運営上の課題として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学童の施設に個人宅を借用している。 (近所に騒音で迷惑をかける、家賃の件) 2 遊び場がない。(横断歩道を渡って行くので引率・送迎をしている) 3 人数確保が困難。(母子家庭、高学年の児童に限られている) 両親就業家庭の受入れも検討している。 <p>課題解決に向けた方策</p> <p>学区内の既存の公共施設(建物など)を活動場所として活用できれば、福祉活動に役立ち有難いです。</p> <p>全国的に、子どもの放課後の安全な居場所の確保の子育て支援 母親が子どもを預けて安心して働ける就業支援 などのためにいろいろな方策を講じております。</p> <p>当団体も「次代を担う子どものためにも、今すぐやらなければならない学童の場所の検討」を地区の皆様、福祉関係の方々にご協力頂いて問題を解決していきたいと思っております。よろしくお願い致します。</p>

9	<p>【福祉関係団体 E】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 当点訳グループは、市内 3 箇所（平・小名浜・勿来）に分かれて、日常の点訳の活動をしています。</p> <p>点訳には点訳文章の印刷をするための機械（点字印刷機、パソコン、製本機等）がいくつかありまして、作業の利便や場所が狭いなどの関係から各地区に分散して保管し利用しています。</p> <p>現在、いずれの地区も場所が手狭になってしまいまして困っております。</p> <p>課題解決に向けた方策 活動を続けるには不十分な状態にありますので、今後のボランティア活動を推進する上では、もう少し大きな場所の提供をお願いします。</p>
10	<p>【社会福祉法人 E】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 乳幼児期からの育ちを、しっかり子育て、子育てが出来るようサポートしていく大切さを思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭にいる乳幼児と母親の問題（運動量の少なさ〔テレビづけ〕） 2 保育園・幼稚園の保育の質の向上 「人間の基本的育ちの原点として、人間関係をどうつくっていくのか。けんかの大切さ。体づくりとして五感をどう形成していくのか。意欲の基礎となる体力をどうつくっていくのか。」など、保育、教育の中で培う大切さ。子育て、保育の科学を学ぶ大切さを思う。 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各保育園・幼稚園の質を上げ（独自の研修会を市が主催）保育園・幼稚園が全て子育て支援センターとして、地域のお母さん、お父さんの「たまり場」になれて、しかも、子育ての発達を支援出来る質を有すること。有償ボランティアも配置すること。 2 (イ) 発達の科学を学ぶための時間を保育士に保障する。 (ロ) 知育は先ず体力づくりから。体力づくりには、外遊び、散歩が大切です。そのためには、人手が要ります。努力する心を培う「昔遊び＝こま、竹うま等」も大切です。そのためのも人手が必要です。お母さん保育士助手の配置、又は元気なお年寄りの有償ボランティアの配置が出来ればと思います。 (ハ) 保育士助手、有償ボランティアの費用は支出して下さることを願います。 (ニ) 国の保育園、幼稚園への人員配置は非常に貧しいです。 子どもは国の宝、手厚い対応あつての育ちです。

11	<p>【社会福祉法人 F】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 障がい者福祉施策の視点から意見を申し述べます。 障がい者福祉施策を維持していくためには、次の三種の方法があるといわれております。</p> <p>本人の経済的自立に期待する。 家族の負担や支援に期待する。 税によって公的支援を行う。</p> <p>いわき市においても、以上のような方法をいかに効率的に組み合わせしていくかが課題であると考えます。</p> <p>課題解決に向けた方策</p> <p>のケース、本人の経済的自立に期待するためには、就労支援が不可欠であり、ジョブコーチを増やすなどの方策と、就労の場の確保が必要で、市自体も積極的に障がい者を雇用する姿勢が求められます。たとえば知的障がい者の場合、公共施設の清掃や市立病院における比較的単純な作業に、指定業者の下で指導を受けながら従事するなど、方法はあると思います。</p> <p>家族の負担・支援に期待するケースでは、 から まですべてにわたる問題で、家族の積極的な支援の姿勢があってはじめて、一般市民の協力が得られると考えます。そのためには、施設や親の会などの団体や組織が行政とのジョイント役になることも可能で、所得に応じた負担を家族に求めることも視野に、官民一体となって質の高い施策を構築すべきであると思います。</p> <p>働く能力のある障がい者には、グループホームの家賃補助を増額するなど、自立に向けての安定した生活を保障すべきで、低所得世帯・重度障がい者・問題を抱える家族などに十分な公的補助がゆきわたるよう、民生委員などの社会資源を駆使しての情報をもとにした、きめの細かい施策が必要と考えます。障がい者にたいする地域の理解が、すぐに浸透するとは思えません。地道な積み重ねが必要で、そのためには本人・家族など当事者の積極的な関与が不可欠であり、施設および事業所さらには親の会の果たす役割は大きいと確信します。</p> <p>最後に、県内市町村にさらには全国に誇る、いわき市独自の施策を発信されることを期待します。</p>
12	<p>【社会福祉法人 G】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <p>1 地域福祉計画策定に当たっては、ともすれば学識経験者は、救貧的社会福祉制度はすでに整備され地域自立生活の保障の立場にあるようであるが、地域においてはまだまだ地域経済情勢は厳しく、失業による家族崩壊なども見られ経済的困窮者対策も必要である。これを踏まえ社会福祉法人の重要な役割の一つは地域福祉に対する貢献であり、その法人の社会福祉施設のハード及びソフトは貴重な社会資本であるとの観点か</p>

	<p>ら、これらの解決の一助として有効活用をすべきと考える。</p> <p>2 縦割りで考えるのではなく他の部署との連携も図りながら様々な社会問題に対応していくことが地域福祉計画策定に緊要と考える。 社会問題とは少子高齢化、ニート対策等である。</p> <p>課題解決に向けた方策</p> <p>1 それぞれの社会福祉施設は長年に渡り地域交流を実施してきた実績を生かし、例えば配食サービスに限らず民生委員、行政等と連携を図るセーフティネットを構築し、経済的困窮者の把握・援助、虐待の早期発見等に努めるキーステーションにする。</p> <p>2 例えば高齢者の生き甲斐対策として、あるいはニート対策又は障がい者対策としてボランティア活動のため、いわき市内の観光案内のボランティア活動の検討がなされた場合、垣根を越えてそれが迅速に行うことができるようなシステムを構築する。</p>
13	<p>【社会福祉法人H】</p> <p>その1</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題 保育園や幼稚園に通っていない、在宅の子育て支援は、いわき市で『地域子育て支援センター』の名目で行っています。センターは地区に一箇所指定されて、いわき市全体で5箇所あります。しかし、地域の子育てを支援しているのは、指定された5箇所だけでは網羅できないと思います。全ての保育所で何らかの方法で地域の親に対して、子育てを支援しています。例えば、当園では、年間電話で50件ほどの相談を受けています。また、園を開放して『つどいの広場』を月に2回行っています。また、訪問者に対して年間50件ほど子育て相談を行っています。小規模ではありますが、地域に密着してきめ細やかな子育て相談を行っています。構えて大規模にすることも大切ですが、気軽に散歩気分で保育所を利用するための環境があってもいいのでは。</p> <p>今のところ、その費用は全部自前で行っている状況です。</p> <p>課題解決に向けた方策</p> <p>1 『地域子育て支援センター』の指定を受けていない保育所も子育て支援に対して出来高払い形式で費用を請求できる。</p> <p>2 子育てで孤立している親を登録制にして、近くの保育所が継続的に支援をする。</p> <p>3 在宅で子育てをしている親が、お子さんと一緒に散歩気分で、井戸端会議が気軽にできる場を用意する。(子どもは砂場や遊具で遊べる場)</p> <p>その2</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <p>1 計画策定に当事者が入るべき。</p> <p>2 障がい者の余暇支援がない。</p>

	<p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計画策定委員に障がい者を、特に精神障がいと知的障がい（支援者もつける）を入れて意見を聞いて下さい。 2 障がいのある方の余暇支援が今回の障害者自立支援法で抜けています。障がい者もお年寄りもそこに行けば誰かと話が出来たり、一日楽しく過ごせる場をたくさん作って欲しい。 <p>その3</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉は、保健・福祉・医療だけでなく、教育、環境、住宅、道路等々、生活全般にわたって考えなければならないが、課題となるのは、行政の縦割り組織が大きいと思われる。 2 日常生活圏域の組織が出来ていないこと。 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行政において、地域福祉を推進していく横断的な組織づくりと予算措置。 2 早めに日常生活圏域の組織づくりを行い、共通認識を進める集まりの回数を重ねること。
14	<p>【福祉関係団体 F】</p> <p>本市の地域福祉を推進していく上での課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活路線バスの廃止及び減便により、高齢者の社会参加や日常生活に支障があり、家に閉じこもりがちになる。 2 介護福祉施設における介護の内容に優劣があり、また希望する施設への入所が難しく、高齢者は将来の老後に不安を感じている。 <p>課題解決に向けた方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域住民によるバス運行事業への協力及び行政支援による福祉バスの運行等で、公共交通手段の確保を図る必要がある。 2 介護福祉施設の介護業務の資質を向上する施策として、第三者機関（市民により構成）による監視及び経営者・従事者の研修強化を推進する必要がある。また、入所待ちがないよう、施設の充実が望まれる。 <p>一方、健康的な高齢者を育成するため、行政が率先して健康推進の諸施策並びに財政的支援を図るべきと考える。</p>